

第5回 秋川高校跡地及び秋川高校跡地周辺地区のまちづくりに向けた有識者会議

日 時：令和6年3月19日（火） 10:00～11:40

場 所：あきる野市役所 本庁舎5階 503会議室

出席者：饗庭座長、朝日委員、下村委員、古屋委員

<進行：饗庭委員長>

■副市長挨拶

■提言書の最終確認 《説明：事務局》

【意見交換】

（古屋委員）

- ・市街化調整区域から市街化区域に編入していく方向性であると思われるが、読み解き方が難しい。市街化編入に向けてどのように考えられているか。
- ・公有地と私有地は整備に対する温度差があるため、段階的に整備していくことも考えられる。

（事務局）

- ・今年度の検討内容を方針にブラッシュアップさせ、土地利用の方向性を明らかにした段階で、市街化区域への編入に向けて、東京都と調整を行う予定である。
- ・上位計画の位置付けにおいては、適切に土地利用を誘導し、市街化に編入していくこととしている。

（饗庭座長）

- ・メタセコイア並木の維持管理などを含め、エリア全体でまちづくりを進めていくというエリアマネジメントの考え方を示してはどうか。
- ・土地利用の方向性の後に、エリアマネジメントについて整理するのがよいと考える。

（下村委員）

- ・産業と暮らしのリンクや、農の風景との調和、エリアが自立的に循環するエリアマネジメントの視点などを盛り込むと、あきる野らしさが出るのではないか。

（朝日委員）

- ・土地利用の方向性について、交流拠点は空間づくりをコントロールする仕掛けがないと実現が難しいと考える。交流の部分に、エリアマネジメントの視点を盛り込んでどうか。

（饗庭座長）

- ・今後の動きについて、どのように外部の人たちを巻き込んでいくかが課題である。通常のやり方では集まらないと思うため、企業1本釣りのような形で、従業員の意見を聞き取りながら進められるとよい。また、地域のキーパーソンや産業、住宅、交流の各プレイヤーに考えてもらおうと面白いのではないか。

(事務局)

- ・今後の進め方の参考にさせていただくとともに、提言書に関しましては、本日のご意見を反映させるため軽微な修正をこれより行い、市長へ手交して頂こうと思っておりますがよろしいでしょうか。

(委員全員)

了承

■先生方からコメント

(饗庭座長)

- ・本計画はこれからだと思う。市民の関心も高いと思われるため、オープンに進められるとよい。

(下村委員)

- ・秋川ののびやかな風景の中に、メタセコイア並木や畑、山が見える良い雰囲気のある場所であるが、看板が雑然としているため、今後は景観づくりを行うとよいと思う。
- ・産業と住宅のバランスや、新しい働き方の提案ができると、今集まっている層とは違う人たちを集めることができるのではないか。

(朝日委員)

- ・メタセコイア並木や農地などの自然資本が価値を持つ仕組みに興味がある。
- ・苦労している事例は多くあるが、エリア内でお金を回し、環境を維持していく仕組みづくりが肝になると考える。
- ・産業が前面に出て、福祉や学校などの要素が後退したイメージがあったが、福祉施設などは常に地域にあるものとしてマネジメントしていければよい。
- ・マイクロモビリティでの移動が合う場所だと考えるが、安全性など様々な問題が出てくると思われる。問題を投げ、対話を起こしていただきたい。

(古屋委員)

- ・市として何を求めるか、市民に豊かな生活を支えるために必要なものは何かを、今後考えていけるとよい。

(遠藤委員)

- ・短い期間でしたが有意義な意見交換ができたと思う。実現したい具体的な街のイメージを持って、今後の土地利用の誘導を積極的に進めていただきたい。地権者とまちづくりの時間軸をしっかりと共有して、地権者とともに今後の都市計画の実現プロセスを組み立てて推進していただきたい。メタセコイアを地域のシンボルとして保全するなら、ただ残すだけでなく、市民や民間が守り育てる仕組みづくり、並木の足元を活用するエリマネなどをまちづくりのテーマとして市が位置付け、都市計画の時間軸とは一旦切り離しつつ、地域住民や市民ができることから始めるなど、地域の人たちが成果を感じやすくまちづくりが盛り上がるような進め方の工夫も必要かもしれない。今後の展開に期待している。

■解散挨拶

■閉会

(以上)

